

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号	2023B-13						
研究開発課題名	思春期やせの予防プログラム開発のための疫学研究						
分類※	<input checked="" type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤	<input type="checkbox"/> ⑥	<input type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input checked="" type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S		
主任研究者	所属	社会医学研究部					
	役職	専門職					
	氏名	石塚 一枝					
実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日						

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

成果の概要

今年度は、思春期やせと関連が強い Disordered eating (ChEDE にて測定) に関する調査を実施し、Disordered Eating と、孤独感について分析し日本児童青年期学会で発表し投稿準備中である。また、家族との関係についても分析を行い、現在学術誌に投稿準備中である。

(1) 孤独感と Disordered eating

新型コロナウイルス禍では、思春期やせが増加した。同時に新型コロナウイルス感染対策として実施した行動自粛の影響で孤独感が懸念されている。そこで本研究では、孤独感と Disordered eating について検討したところ、孤独感は性別に関係なく Disordered eating と関連していた。

孤独と Disordered eating の関連性の根底にある精神病理学的メカニズムについては、さらなる検討が必要であるが、思春期の Disordered eating の予防には、孤独感を抑制する対策が必要であると考えられる。

(2) 家族との関係と Disordered eating

Disordered eating の総スコア (平均値、標準偏差) と、個別項目の全項目において、女兒

のスコアが優位に高かった。家族との関係については、「子どもと私は温かく親しい関係である」「子どもは定期的に連絡を取り合う大人と温かく親しい関係である」と回答した保護者は、こどもの Disordered eating が少ない傾向であった。

思春期やせの発症予防として、特にこどもと両親・周囲の大人との関係に対して介入が有効な可能性がある。